

花見川区

面積=34.19平方キロメートル
人口=177,072人(2022年9月1日現在)

市の北西部に位置し、北部は八千代市、北東部は佐倉市と四街道市、西部は習志野市に隣接する花見川区。区域の中央を南北に流れる花見川は緑豊かな河川空間を形成しており、サイクリングや釣りを楽しむ人々の姿が見られ、自然に囲まれたのどかな風景は、オオガハスと共に区のシンボルになっています。

区の将来像

川と緑と花々に包まれた、安らぎと潤いのまち

開花70周年！市の花オオガハス

1993年に市の花に制定されたオオガハスは、植物学者の大賀一郎博士が現・東京大学検見川総合運動場で発掘した古代ハスの実を開花させたものです。

また、水辺と緑、四季折々の花々の魅力あふれる花島公園は1998年に開園しました。



オオガハス



花島公園

稲毛区

面積=21.22平方キロメートル
人口=160,298人(2022年9月1日現在)

市の北西部に位置し、区域の大半が住宅地の稲毛区。千葉大学、千葉経済大学、敬愛大学など高等教育機関が集積し若者が学ぶほか、研究機関も立地しています。かつては海水浴や潮干狩りが楽しめるリゾート地としてにぎわいました。稲毛浅間神社周辺の松林に当時の面影が残され、一部は稲毛公園として開放されています。

区の将来像

まなびと創造が脈打つ文教のまち

保養地の歴史を伝える和風別荘建築

明治中期以降、保養地として多くの文人墨客が訪れた稲毛は、海岸線の松林を中心に、別荘・別邸が建てられ、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑と妻・浩も、半年ほど新婚生活を送りました。溥傑らの住家は、保養地としての歴史を伝える貴重な和風別荘建築であり、ゆかりの家・いなげとして、市地域有形文化財に登録されています。



千葉大学



ゆかりの家・いなげ

若葉区

面積=84.19平方キロメートル
人口=145,558人(2022年9月1日現在)

6区の中で一番面積が広く、市域の約3割を占める若葉区。また、農家数、耕地面積とも6区の中で最も多く、市の農業をけん引しています。

緑地・里山・谷津田などの豊かな自然環境に恵まれており、泉自然公園や大草谷津田いきもの里、坂月川ピオトープなどで自然に親しみ、触れ合えます。

区の将来像

共生の原点 縄文が息づく、自然の恵み豊かなまち

日本最大級！特別史跡加曽利貝塚

縄文時代の貝塚で、日本最大級の規模を誇る加曽利貝塚は、2017年に国の特別史跡に指定されました。

ライオンなど100種類以上の動物がいる動物公園。2005年には、レッサーパンダの風太くんの美しい立ち姿が話題になり、全国区の人気者となりました。



特別史跡加曽利貝塚



ライオン(トウヤ)

美浜区

面積=21.20平方キロメートル
人口=152,551人(2022年9月1日現在)

国際色豊かな都市機能と、住環境を高度に融合させた未来型の都市を形成している美浜区。

中でも幕張新都心地区は、国際的なイベントや会議が開催される幕張メッセを核に、ZOZOマリンスタジアム、業務研究、タウンセンター、住宅、文教、公園・緑地の各地区をバランス良く配しています。

区の将来像

海辺を楽しみ、世界とつながるまち

花火、X Games、五輪など多様なイベントが開催

2012年から幕張海浜公園で開催されている幕張ビーチ花火フェスタ(千葉市民花火大会)。幕張ならではの、迫力満点の花火を体感できます。

2015~2019年にレッドブル・エアレースが幕張海浜公園で、2021年にオリンピック3競技・パラリンピック4競技が幕張メッセで、2022年にX GamesがZOZOマリンスタジアムで開催されました。



幕張ビーチ花火フェスタ



X Games



個性がきらり

千葉市の6区



千葉市は1992年4月1日に政令指定都市(政令市)に移行し、6区が設置されました。

皆さんと共に30年間歩んできた6区のプロフィールや将来像を紹介します。

図政策調整課
☎245-5047
FAX245-5476

中央区

面積=44.71平方キロメートル
人口=213,621人(2022年9月1日現在)

市制施行以来、県都の政治・経済・文化の中心地として発展してきた中央区。

中でも千葉駅を中心とした千葉都心地区は、県庁、市役所をはじめとした各種公的機関のほか、銀行・大型商業施設・オフィスビルなどの多様な都市機能、市美術館や郷土博物館などの文化施設なども集積しています。

区の将来像

人々が行き交い、にぎわいと文化を生み出すまち

1日10万人以上が乗車する千葉駅

1日の平均乗車人数が市内で最も多く(2019年時点=107,829人/日)、JR・京成電鉄・千葉モノレールの各線が接続し、市内および東京方面、県内各方面を結ぶ交通の要衝の千葉駅とその周辺は、この30年間で大きく生まれ変わりました。



郷土博物館



千葉駅周辺

緑区

面積=66.25平方キロメートル
人口=129,604人(2022年9月1日現在)

市の東南部に位置し、若葉区に次ぐ面積を有する緑区。JR外房線・京成電鉄千原線沿線には住宅地が広がっている中にも、昭和の森をはじめとする緑あふれる公園や、四季折々の自然が楽しめるおゆみ野四季の道など、豊かな自然が生まれ、人々の暮らしと調和しています。

また、北部を中心に山林、畑地、田畑が広がり、酪農、養豚、野菜などの農業が営まれています。

区の将来像

田園と調和する広やかで快適なまち

30年間の人口の増加率は6区で最大

緑区が誕生した1992年4月の人口は65,635人でしたが、あすみが丘とおゆみ野における大型区画整理による街づくりなどにより、現在の人口は当時の約2倍になりました。30年間の人口増加率は6区最大で、現在も増え続けています。



昭和の森



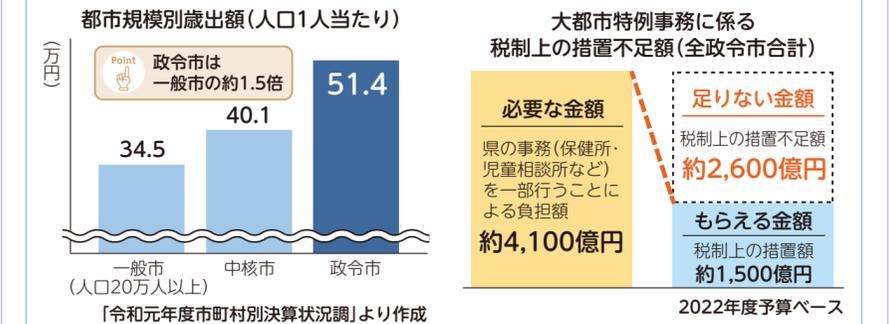
おゆみ野四季の道

さらなる発展のために 新たな大都市制度の創設に向けて

千葉市は政令市として発展を続けてきましたが、政令市制度には課題もあり、今後のさらなる発展のために、新たな大都市制度である特別自治市制度(通称=特別市)の創設に向け、他の政令市と共に取り組んでいます。

現在の政令市制度の課題

政令市は、道府県に代わって多くの仕事(大都市特例事務)を行っているほか、人口や産業の集積により、福祉や都市インフラの整備・維持などの仕事も多くあります。このため、一般市より多くのお金がかかりますが、役割や仕事量に対して税源が足りていません。また、道府県と市に仕事と役割が分かれていることで、災害対応や感染症対策など緊急を要する場面で調整に時間がかかることがあります。



政令市制度の課題を解決する特別市制度

特別市とは、市民サービスの最前線にいる政令市が、市域内での道府県の仕事を一手に担う、新たな大都市のかたちです。詳しくは、指定都市市長会 特別自治市

特別市が実現すると

- 国の業務を除き、全ての業務について特別市で決められるようになり、市民の声をより効果的かつ迅速に反映させ、市民生活が向上します。
- 役割や仕事量に見合う公平な税制上の措置がされます。
- 道府県が、特別市以外の市町村をサポートしやすくなり、バランスの良い発展につながります。

特別市のイメージ

